

## ●編集後記

---

循環をキ-ワ-ドとする環境負荷の少ない都市、地域システムを構築するために社会は、環境学や人間学に基礎をおいた学際的センスを持つ人材の育成を求めています。目に見えるもの、見えないものが複雑に関係しあい、それに人間の営為が加わって地域の環境が形成されていることを体験を通して学ぶために、滋賀県立大学環境科学部では1～3年次を通して、環境フィールドワークを必修のカリキュラムとしています。環境と人間の関わりの中に問題の所在を発見し、相矛盾する事象を超えて解決の提案をまとめるプロセスは、研究者のみならず、実務者において要求される基礎的能力の一つです。歴史や文化の堆積に加えて、都市、農村、自然のフィールドを有する県立大学は、環境フィールドワークの方法論を学ぶのに最適の条件を備えています。

学部年報第3号は「環境フィールドワークの地平」を特集テーマとし、環境生態、環境計画（社会計画、建築デザイン）、生物資源それぞれの専門領域におけるフィールドワークの方法論を紹介すると共に、環境科学部のカリキュラムとしてのフィールドワークの成果について教員サイドから報告するものです。琵琶湖をキャンパスに、人間をテキストとして環境に学ぶ能力を備えた人材を社会に送り出すことができるか否か、フィールドワークの真価が、今、問われています。

最後に、学生レポートをまとめたフィールドワーク報告書の内容が年度を追って充実してきたことを付記しておきます。現段階では、学部内配布にとどまっていますが、フィールドワークにご協力いただいた地域の方々はもとより、環境教育に関心のある学内外の方々に御一読をおすすめいたします。

学部の顔創り委員会

（委員長）奥貴隆（委員）金谷健、杉元葉子、村瀬潤、吉田十一

---

## 環境科学部年報第3号 フィールドワークの地平

---

発行日	1999年3月31日
発行所	滋賀県立大学環境科学部 滋賀県彦根市八坂町2500 TEL：0749-28-8301
発行人	坂本 充
印刷所	サンライズ印刷株式会社

本誌は再生紙を使用しています。